



2021年3月期 第1四半期(4-6月期)
決算短信補足説明資料



2020年7月30日
寿スピリッツ株式会社
(コード番号:2222 東証第一部)
問合せ先 取締役経営企画部長 松本真司
TEL:0859(22)7477

記載金額は、表示単位未満を切り捨て
比率は、千円単位の金額をもとに計算

1. 業績ハイライト

第1四半期(4-6月期)業績

売上高 74.4%減収、純損失 1,163百万円

新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」発令を受け、外出移動自粛、商業施設の臨時休業などにより、当社グループにおける事業活動は、大幅な縮小を余儀なくされた結果、四半期純損失計上を強いられる厳しい第1四半期業績となった。

2. 四半期業績(対前年同期比)

大幅な減収及び生産調整にともない、製造固定費をカバーできず売上総利益率が悪化。

(単位:百万円、%)

	前第1四半期 (2019年4月-6月)		当第1四半期 (2020年4月-6月)		対前年同期	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	10,626	—	2,715	—	△7,910	△ 74.4
売上総利益	6,319	59.5	611	22.5	△5,708	△ 90.3
販売管理費	4,764	44.8	3,020	111.2	△1,744	△ 36.6
営業利益	1,554	14.6	△2,409	△ 88.7	△3,964	—
経常利益	1,567	14.8	△1,755	△ 64.6	△3,322	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,022	9.6	△1,163	△ 42.8	△2,185	—
EPS(円)	32.86		△ 37.38		—	

(注) 詳細は、第1四半期決算短信2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご参照下さい。

3. セグメント別の業績

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、各セグメントとも軒並み苦戦を強いられる。

(単位:百万円、%)

	売上高				営業利益		
	前第1Q	当第1Q	増減額	増減率	前第1Q	当第1Q	増減額
シュクレイ	3,625	674	△2,950	△ 81.4	547	△789	△1,336
ケイシイシイ	2,877	1,113	△1,763	△ 61.3	250	△517	△767
寿製菓・但馬寿	2,690	579	△2,110	△ 78.4	347	△543	△890
販売子会社	1,606	208	△1,398	△ 87.0	162	△216	△378
九十九島グループ	1,059	224	△835	△ 78.9	101	△291	△392
その他(注2)	257	132	△125	△ 48.8	△29	△9	20
セグメント計	12,116	2,932	△9,183	△ 75.8	1,378	△2,366	△3,745
調整額	△1,489	△217	1,272	△ 85.4	176	△42	△219
合計	10,626	2,715	△7,910	△ 74.4	1,554	△2,409	△3,964

(注) 1. 詳細は、第1四半期決算短信2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご参照下さい。

2. その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外(台湾及び香港)における菓子事業が含まれております。なお、香港事業は本年2月に事業を閉鎖し、現地法人Honey Sucrey Limitedは現在清算手続中。

4. 四半期業績の推移

(単位:百万円、%)

	2019年3月期			2020年3月期				2021年3月期
	2Q(7-9)	3Q(10-12)	4Q(1-3)	1Q(4-6)	2Q(7-9)	3Q(10-12)	4Q(1-3)	1Q(4-6)
売上高	9,746	11,267	11,153	10,626	11,760	13,287	9,505	2,715
(増減率)	4.8	9.1	13.4	23.5	20.7	17.9	△ 14.8	△ 74.4
営業利益	1,321	2,167	1,657	1,554	1,963	2,672	263	△ 2,409
(増減率)	0.5	15.2	29.4	87.4	48.6	23.3	△ 84.1	-
経常利益	1,322	2,191	1,663	1,567	1,981	2,693	233	△ 1,755
(増減率)	0.0	15.9	29.0	87.7	49.8	22.9	△ 86.0	-

5. 新型コロナウイルス感染拡大の業績に与える影響等

<2021年3月期 第1四半期>

- 期初の「緊急事態宣言」発令を受け、外出自粛要請に伴う移動の減少、商業施設の臨時休業などにもない、当社グループにおける事業活動は、大幅縮小を余儀なくされた。役員報酬及び賞与の減額などによる人件費の抑制などのコスト削減に努めるものの、売上高の大幅に落ち込みにより、四半期純損失計上を強いられる厳しい結果となった。
- 当第1四半期の月別売上高(海外子会社除く)は、4月が前年同月比82.4%減、5月が同 79.0%減、6月が同 61.5%減。
- 外出自粛に伴う巣ごもり需要増加などにより、「ルタオ」をメインとする通信販売は前年同期比46.2%増の826百万円と堅調に推移。
- 当座貸越枠を32億円から78億円に増額し、資金流動性の確保を図る。
- 休業補償に伴う雇用調整助成金の申請などにより、助成金収入623百万円を営業外収益に計上。

<足元の状況>

- 都道府県をまたぐ移動の自粛解除など、段階的な自粛解除により、一部に回復の兆候が見られるものの、最近の首都圏及び主要都市の検査陽性者数増加傾向などにより、移動自粛ムードは残り、回復ペースは低調に推移している。
- 緊急事態宣言解除後、全ての直営店補の営業は再開。生産面では、依然として先行き不透明感が強いことから、引き続き、稼働を抑制し、在庫の圧縮に努めている。

<2021年3月期の業績予想及び配当予想について>

- 現時点では、引き続き「未定」。業績予想が可能となった段階で、速やかに開示予定。

以上